

開発保全航路の整備により 物流コスト削減

かんもんこうろ

file14

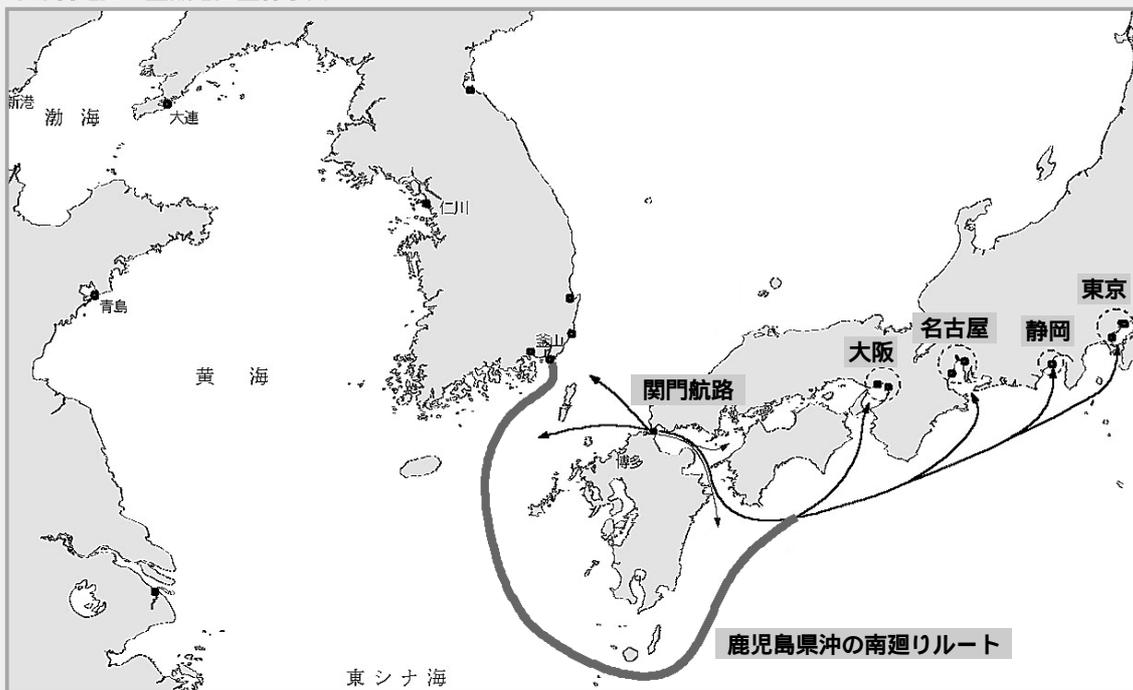
関門航路

1日に約700隻の通航船舶があり我が国でも有数の輻輳海域となっている関門航路は、現在までに航路長45km、航路幅500~2,200m、水深約12mの整備がなされた。九州の玄関口である博多港や北九州港、国外においても韓国・中国及びヨーロッパ等の各港とわが国の主要港湾である東京湾や大阪湾などを結び、海上交通の要衝として重要な役割を果たしている。関門航路を通航しない場合は鹿児島県沖を廻ることとなり、より遠い経路を航行することになる。

例えば、東京から韓国の釜山港へコンテナ船（35,000G/T 総トン数）級で貨物を運ぶ場合の貨物運搬を比較すると、関門航路を通航した方が、鹿児島県沖を廻るよりも約8時間の短縮になり、運搬費用も1隻当たり約60万円 削減できる。九州地方整備局算定



●赤石地区・金磯地区全体写真



第2部
個別港湾事例

●関門航路全景



●関門航路を通航する大型船

